

# 体感・ななお



初めての火起こし体験。なかなか思うようには火がつかず、もう一息で……



慣れない海でのシュノーケリング体験に、戸惑いの表情も……

自然を満喫

ふるさと

子ども夢学校

子ども農山漁村交流プロジェクト

金沢から訪れた金沢市立馬場小学校の活動の様子を紹介。

近年、大自然の中に飛び込んで、日常と違ったさまざまな体験を楽しむ人たちが増えている。グリーンツーリズム・エコツーリズムと呼ばれる「自然体験型旅行」がそれである。また、アグリツーリズムと呼ばれる「農村体験型旅行」も人気を集めている。これらに共通することは、自然とのふれあいや人との出会いによる大きな感動である。

学校教育でも、緑豊かな農山漁村で自然や文化に触れ、その地域に住む人々との交流を通じて子どもたちにもさまざまな実体験をさせようという取り組みが注目されている。それが昨年から始まった子ども農山漁村交流プロジェクト（愛称「ふるさと子ども夢学校」）である。

今年度、七尾市でも市外からの小学生を受け入れた。最初は不安そうにしていた子どもたちが、次第に目を輝かせ楽しそうに体験する様子から、思い出深い貴重な経験になったことは間違いない。ここで忘れてはならないことは、七尾にはそれを受け入れられる豊かな自然があり、温かい地域の人々がいるということ。これらの経験は、子どもたちの心にいつまでも残ることだろう。



4 kmにも及んだ里山歩き。子どもたちも少しの間、ひと休み……



水族館の裏側の仕事を体験。慣れない手つきで、職員に教わりながらペンギンたちに与えるエサを自分たちで調理



飯ごうでご飯を炊いてみる。うまく炊けるかな……



ここを第2のふるさとと思  
って帰ってきてほしい



能登島旅館民宿飲食店組合  
会長 谷口 和義さん

はじめは緊張していた子どもたちも、民宿の人たちと話しなが  
ら体験するうちに、だんだんと  
打ち解けて表情がみるみる明  
るくなっていく。世話をする側も、  
自分の子どものように接してい  
るので、活気が出て楽しんでい  
る。

体験メニューの中では「魚さ  
ばき体験」が特に好評で、子ども  
たちとふれあいながらやるので、  
会話も弾む。

別れるときは、ここ(民宿)を  
第2のふるさとと思っていつで  
も帰っておいでという気持ちを  
込めて「行ってらっしゃい」と送  
り出すようにしている。

今後は新しい企画も考えなが  
ら、能登島全体を盛り上げてい  
きたい。



はじめは息が合わなくてうまくいかなくても、  
みんなの気持ちをひとつにすれば…



宿泊する民宿では自分たちが食べる魚のさばき方を教わった。  
これがなかなか難しい…。



海水を器に入  
れて塩づくりに  
挑戦。水が  
なくなると、  
底には塩の結  
晶が…



漁師の方に教わり  
ながら、刺網漁で捕  
れた魚を一匹ずつ  
外す。今晚のおかず  
は何だろう…

自然とふれあい、  
人とふれあう  
**交流体験型  
修学旅行**  
岐阜県から修学旅行に訪れた3校の中学生  
彼らはそこで何を学び、何を感じたのか？

平成20年度から、七尾市では岐  
阜県内の中学校からの修学旅行  
を受け入れている。昨年度は3校  
から延べ536人、今年度は3校  
から延べ682人が能登島の民  
宿に宿泊して自然体験をしてい  
る(うち2校が同じ中学)。いずれ  
も海のない地域に育った中学生  
ばかりで、大自然の中での初めて  
の体験に、会話が弾み自然と笑顔  
もこぼれる。

体験メニューは豊富で、イルカ  
ウォッチング・磯辺観察・刺し網  
漁の見学・魚釣り・ボート乗り体  
験…。民宿に帰ってからは魚の  
さばき方を習って夕食の準備と、  
とにかく生徒たちを飽  
きさせない。夕食後には  
は民宿の方々と話  
る時間も、体験学習を通じて、  
生徒たちはこれまでに経験した  
ことのない、一生忘れられない貴  
重な体験をした。

後日生徒たちから民宿の方々  
へお礼の手紙が寄せられており「時  
には厳しく叱り、時には優しく接  
していただき、僕たちを本当の家  
族のように接してくれて本当に  
ありがとうございました」とつづ  
られている。単なる宿泊者との関  
係を超えた、心と心の交流がそこ  
にあったことの証といえる。

